

平成24年8月29日

第6回防潮堤を勉強する会
舞根での復興支援事例

首都大学東京
横山勝英

1. 活動体制

- ①NPO 法人森は海の恋人 畠山重篤, 畠山信, 田中克 (京大名誉教授), 横山勝英 (首都大)
- ②研究者グループ 東北大, 東大, 慶應大, 首都大, 北里大, 東京農大, 有明高専, 神戸女学院大, いであ (株), 日立化成工業 (株)

ポイント: 様々な分野の専門家を集める, 組織の枠組みにとらわれない人に声をかける (派閥を作らない), 緩やかな連携, 情報・データの共有化, 定期的な発信

2. 活動内容

- ①カキ・ホタテ養殖業の早期再開を目指す
三陸沿岸で最も重要な水産業を立て直す必要性・・・海底がれきの撤去
- ②養殖海域の安全性を確認
海の回復を住民に示すことで元気づける, 風評被害を防ぐ
・・・海の生物環境のモニタリングと情報発信
- ③住民の生活環境を整える
住処が決まることで地区将来像を考える余裕が出来る
・・・高台移転のプランニング
- ④総合的なまちづくりを推進
将来像の議論と具体化, 歴史・文化のヒアリング, 防災・利便性・環境の調和,
意見調整と行政への提案
- ⑤復興ノウハウの移転

ポイント: 地域全体をコーディネートする. ただし, 最初から大上段に構えると総論賛成, 各論反対になるので, 個別の問題を一つずつクリアーしてゆく.

3. 活動実績

- 2011年4月～5月 海底がれき探査
- 2011年5月～現在 生物環境モニタリング
- 2011年8月～ 住民懇談会にて報告 (8月), 唐桑漁協にて報告 (10月)
各地でシンポジウム講演 (12月仙台, 気仙沼3月, 東京4月,
福岡5月, 京都10月)

2012年1月	高台移転既成同盟会よりプランニングの依頼
2012年2月	高台移転計画決定, 行政へ提出
2012年3月	移転跡地利用に関する地区協議, 震災で生じた自然環境を活用したまち作りの方向性を確認
2012年4月	防潮堤勉強会を開催 (宮城県, 気仙沼市, 唐桑半島5地区)
2012年5月	舞根2区に関する防潮堤要望書を取りまとめる, 行政に提出
2012年6月	漁業集落防災機能強化事業に移転跡地の利用方法を提案
2012年7月	震災干潟における環境教育を開始 (市内小中学校から応募多数)
2012年8月	三陸全域の防潮堤問題に対する活動を展開, 行政への陳情, 新聞の論説欄に投稿など

4. 防潮堤問題について

- ・舞根2区では防潮堤を不要とする要望書をまとめた。これは、高台への全戸移転が決定していたから。元々、高潮堤防もなかったもので、漁業者も堤防を不要と考えていた。
- ・防潮堤は地域の実情に合うように計画しなければならない。考えられる選択肢は、
 - ①堤防の高さ・・・計画通り L1 対応, 計画より低い高さ (3m 程度), 従前の高さ
 - ②場所・・・・・・計画通り (従前の場所), 内陸側に移動
- ・これまでにいろいろヒアリングしたところでは、以下の要望が多い
 - ①漁港区域では従前の高さプラス α の高さを従前の場所に作る
 - ②海水浴エリアでは従前の高さプラス α を内陸に後退させて作る (砂浜後退により)
 - ③新規に自然公園エリアとしたい場所は海岸付近に何も作らない, 堤防を作る場合は人間の活動区域まで大幅に後退させる
- ・原則として、浸水区域は危険地域として指定されて居住することができないので、「守るべき財産」の定義を住民と行政で議論する必要がある。
- ・堤防建設のスケジュール (正確な記述ではありません, 諸情報をまとめたものです)

H23年4月～H24年3月	災害査定による暫定計画作り
H24年4月～H24年7月	住民説明
H24年8月～H24年9月?	住民の意見照会?・・・たった数ヶ月!
H24年10月～H25年3月	詳細計画の作成, 発注
H25年4月～	建設
- ・従前のものを従前の場所に作る場合 (災害復旧事業) は、住民合意はあまり必要ではない。しかし、今回の場合は①土地利用が大幅に変更になる, ②海岸地形が大きく変化している, ③従前の規模より数倍大きいものを作ることになるので、明らかに普通の災害復旧事業と内容が異なる。それを、住民合意を得ないまま緊急の名の下に推進しようとするのは問題である。
- ・行政の示した計画やスケジュールをベースに議論するのは好ましくない。相手の土俵で勝負しても小さな要求しか通らない。全てを白紙撤回して一から議論し直すように要求した方がよい。「防潮堤が遅れると他の事業も遅れる」という脅し文句に対して異議を申し立て、早急に推進すべき整備事業は遅らせないように協議する必要がある。